

## 前期終業式での校長講話(全文)です。

9月29日(金)午後実施した前期終業式での「校長講話」の全文を掲載します。

## ◆平成29年度前期終業式での校長講話◆ テーマ:「勉強するのは何のため?」

- 本日のテーマは「勉強するのは何のため?」です。
- ほぼ同じ「何のために学ぶのか」というテーマで、昨年12月22日、冬休み前の全校集会でお話ししました。最後に、「クリスマスプレゼント」として、さだまさしさんの名曲「風に立つライオン」をアカペラで歌ったときです。歌は印象に残っているが、「何のために学ぶのか」というテーマについて、私が話した2つの視点を明確に記憶している人は、少ないと思います。大丈夫です。「人間は忘れるから成長があるのです」
- 私は、「何のために学ぶのか」ということについて、次の2つの視点が大切であると話しました、それは「自分のために学ぶ -自らが幸せになるために学ぶ-」と「人のために学ぶ -周りの人々のために学ぶ-」という視点でした。「人のために学ぶ」ということを感じてもらうために、柴田紘一郎さんというお医者さんの話をし、その人の生き様を歌にした「風に立つライオン」を歌ったのです。2~6年次の皆さん、思い出しましたか。「振り返り」の意味で、並木ドリーム第146号を読んで見てください。1年次生もぜひ読んでください。
- さて、「何のために学ぶのか」は、将来にわたる大きなテーマでした。
- 今日は、日々、勉強している皆さんにとって根源的なテーマである「勉強するのは何のため?」について話します。私は、今年の夏、「苦野一徳(とまのいっとく)」さんという、哲学者に会いました。1980年生まれの新進気鋭の哲学者です。現在、熊本大学の准教授をされています。専門は、教育哲学です。哲学者というのは、人々が途中で考えるのをやめてしまうようなテーマも、ひたすら考え続け、「正解」のないさまざまな問いに対し、「納得解」を与えてくれる存在です。
- 私は、苦野一徳さんの講演を聴き、その本も読んで、たいへん感銘を受けました。この苦野一徳さんが「勉強するのは何のため」と言うことに対し、ズバリ「答え」を述べてくれています。
- それは、「<自由>になるため」です。ここでいう<自由>というのは、「生きたいように生きられる」ということであり、それを「実感」できるということです。<自由>に生きるためには、実にさまざまな「力」が必要です。読み書き計算など基礎的な「力」の他に、学者になりたいのなら、膨大な「知識」がいるでしょうし、世界で活躍するビジネスマンになりたいのなら、外国語力や世界についての「教養」がいるでしょう。勉強する意味は、自分を<自由>にしてくれる「力」を身につけることだという、苦野さんの考えに、私は「納得解」を得ることができました。
- さらに、苦野さんは、「何のために学校に行くのか」ということについても、哲学的に考察されています。その答えは「自由の相互承認のため」です。お互いが相手の<自由>を認め合うことです。この原理は、18~19世紀のドイツの哲学者ヘーゲルも強調しているそうです。
- 学校というのは、「全ての子どもたちが<自由>になれるよう、さまざまな知識・技能をはぐくみ、そしてまた、<自由の相互承認>の感度をはぐくむ場所」であると苦野さんはいっています。
- そして、そのためには「学び合い」が大切であるとも述べています。
- 私は、2015年から「アクティブ・ラーニング」を研究し、そのベース・基盤は「リスペクト」だと言ってきました。リスペクトとは、「敬意を払う、尊敬する」という意味でしたね。そして、本年1月には「他の人に教える、TO学習」を考案しました。
- 今や、本校は、全国的にも注目される「アクティブ・ラーニング先進校」になりました。それは、先生方や皆さんの努力によって、この学校が<自由の相互承認>ができる、リスペクトに満ちた学校になったからだと思います。
- まとめます。今日の話は、「勉強するのは何のため」という根源的なテーマでした。その納得解は、「<自由>になるため」でした。みなさん、一人一人が<自由>になり「生きたいように生きている」という実感を抱き、そして「幸せ」を感じる事が出来るように、ぜひしっかりと勉強して欲しいと思います。特に、6年次生、ここにいるみんなが、毎日一生懸命勉強している6年次生をリスペクトし応援しています。頑張ってください。

- ◆最後に吹奏楽部の伴奏でゆずの「栄光の架橋」を熱唱しました。2番の最後にマイク設備のヒューズがとぶというハプニングがあり、歌い直した3番はマイクなしの「生声」となりました(\*^\_^\*)!!